ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

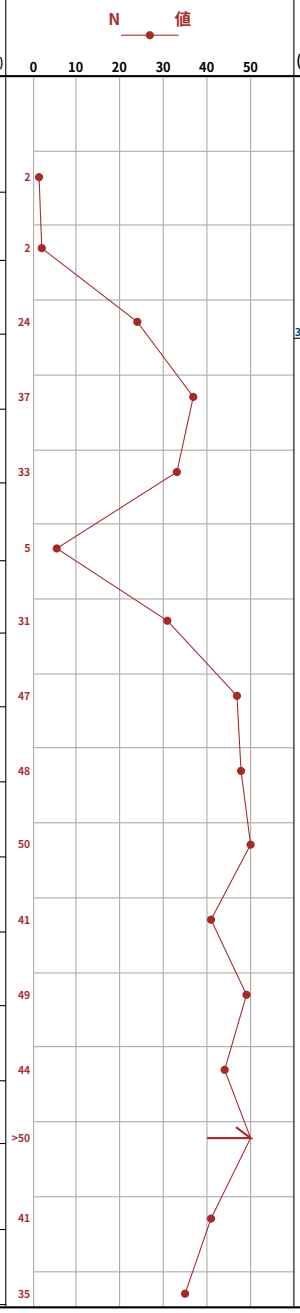
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-No.3(staNo.11+17m)	調査位置				北　緯	36 ° 21 ' 16.4000 "
発 注 機 関	栃木県栃木土木事務所 企画調査課			調査期間	2009-08-06 ～ 2009-08-12	東　経	139 ° 42 ' 57.6000 "
調 査 業 者 名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	38.66 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	20.43 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	37.06	1.60	1.60		砂質粘土 (CHS)	淡褐灰		非常に軟らかい	0.4m付近まで乱れた状態 含水量が中位で粘性は小さい 細粒の細砂が混じる		
	35.76	1.30	2.90		粘土 (CH)	淡灰褐		非常に軟らかい	含水量が中位で粘性がやや大きい 軽石が少量混じる 2.5m付近から細砂が混じり,含水量が中位となる		
	32.66	3.10	6.00		粘土混じり砂礫 (GS-C)	淡灰褐	中ぐらい		φ2～60mmの円・亜円礫が主体である 礫間は多量の粘土と粒径不均一な砂により充填されている 上部3.2m付近まで粘土分が特に多く混じりルーズな堆積状態 所どころ暗褐色を呈し,砂分が多い部位がある 孔壁の自立性が低くく，崩壊しやすい		08/06 3.10
	31.56	1.10	7.10		細砂 (FS)	淡灰	緩い		粒径均一な細砂 シルトを不規則に混じる 6.30～6.45m間は粘土を挟む 6.5m以深は粗砂を混入し粒径やや不均一		
	29.06	2.50	9.60		砂礫 (GS)	淡灰褐	密な		φ2～60mmの円・亜円礫が主体である 礫間は粒径不揃いな砂と少量の粘土により充填されている φ100～150mm(コア長L=30～50mmの3倍程度として推定)の玉石が点在する 8.0～9.0mは全漏水を呈し孔壁は崩壊しやすい		
					粘土混じり砂礫 (GS-C)	灰褐	密な		[10.80]φ2～50mmの円・亜円礫が主体である [11.80]礫間は粒径不均一な砂と多量の粘土により充填されている [12.80]φ100～150mm(コア長L=30～50mmの3倍程度として推定)の玉石が点在する [13.50]12.8～13.00m間はφ30～100mmの礫が多く混入している [14.30]13.0～14.0m間は逃水多い [15.00]風化礫が混入している [16.00]礫種はチャート，砂岩，頁岩等古期岩が多い [16.80]14.6～16.25m間は砂分が多く，礫の混入量がやや少ない [17.50]16.5m付近から孔壁の自立性高く逃水ない		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1／21	1／19		2／40	2
1.55					
2.15	1／18	1／13		2／31	2
2.46					
3.15	5	9	10	24／30	24
3.45					
4.15	14	12	11	37／30	37
4.45					
5.15	16	10	7	33／30	33
5.45					
6.15	2	2	2／13	6／33	5
6.48					
7.15	8	10	13	31／30	31
7.45					
8.15	21	13	13	47／30	47
8.45					
9.15	12	17	19	48／30	48
9.45					
10.15	9	17	24	50／30	50
10.45					
11.15	17	11	13	41／30	41
11.45					
12.15	18	17	14	49／30	49
12.45					
13.15	16	12	16	44／30	44
13.45					
14.15	35	15／4		50／14	>50
14.29					
15.15	11	15	15	41／30	41
15.45					
16.15	7	13	15	35／30	35



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果
3.50	孔内水平載荷試験 1.71E+01

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
2.00	3		物理・力学	
2.80				
3.15	3-1	⊖	物理	
3.45				
6.15	3-2	⊖	物理	08/06
6.48				
9.15	3-3	⊖	物理	08/07
9.45				
12.15	3-4	⊖	物理	
12.45				

17					粘土混じり砂礫(GS-C)	灰褐	密な		[10.80]φ2～50mmの円・亜円礫が主体である [11.80]礫間は粒径不均一な砂と多量の粘土により充填されている [12.80]φ100～150mm(コア長L=30～50mmの3倍程度として推定)の玉石が点在する [13.50]12.8～13.00m間はφ30～100mmの礫が多く混入している [14.30]13.0～14.0m間は逃水多い [15.00]風化礫が混入している [16.00]礫種はチャート，砂岩，頁岩等古期岩が多い [16.80]14.6～16.25m間は砂分が多く，礫の混入量がやや少ない [17.50]16.5m付近から孔壁の自立性高く逃水ない			16.15					35/30	35							16.15	3-5	⊖	物理	08/11
														7	13	15											16.45			
												16.45																		
												17.15				8/3	50/23	>50												
													22	20																
18	20.41	8.65	18.25									17.38																		
												18.15					12/30	12												
	20.11	0.30	18.55		粘土混じり細砂(FS-C)	淡灰	中ぐらい						8	2	2															
												18.45																		
19					粘土混じり砂礫(GS-C)	灰褐						19.15				10/4	50/24	>50												
							非常に密な						17	23																
									粒径やや不均一で粘土が多量に混じる			19.39																			
20									φ2～50mmの円・亜円礫が主体 礫間は粒径不揃いな砂と少量の粘土により充填されている 全体に密実に堆積している 孔壁の崩壊，逃水はない			20.15				15/8	50/28	>50							20.15	3.6	⊖	物理	08/12
	18.23	1.88	20.43										18	17																
												20.43																		